



救世軍

救世軍国際的見解表明

環境への配慮



環境への配慮についての見解表明

救世軍は、人間が、神のかたちに造られ、地球とその中のすべてのものに配慮することが任されてきたということを信じます。

救世軍は、環境の悪化が、今日世界が直面している最も差し迫った問題の一つであり、その影響が、特に、健康、暮らし、安全な住まい、選択の機会などの観点から、最も脆弱なコミュニティに偏った悪影響をもたらしていることを理解しています。

救世軍は、環境破壊が及ぼす、現在及び将来の世代への影響を懸念しています。持続可能な環境の実現は、将来の世代の生活を損なうことなく今日の世界的なニーズと願いを満たすために、必要なことです。



見解表明の背景と状況

前世紀において、地球はかつてない壊滅的なレベルでの環境悪化に苦しみ、その結果として、不自然な生物多様性の変化、大気汚染、水質汚染、オゾン層破壊、土壌破壊がもたらされました。大多数の科学的見解は、気温の上昇が、人間の活動によるものであり、さらに極端で予測不可能な気象傾向につながると予測しています。

石炭、天然ガス、石油は、2012年には、世界の一次エネルギー消費の87%を占めました。2040年にもなお、液体燃料、天然ガス、石炭が世界の総エネルギー消費の4分の3以上を占めると予測されています。

これらの資源の有限性と急速に拡大する世界人口、そして産業や農村活動への影響を考えると、これらの資源の消費が持続可能ではないことは明らかです。

環境の悪化は、しかしながら、単なるエネルギー効率や炭素排出量の問題以上のものです。さらに、人口増加、人口移動、貧困などの他の要因の影響も受けています。

生息地を失ったことと気候変動により、動植物の両方の種の絶滅が加速化されています。大気と水の汚染、食糧生産の減少と重要な土地の砂漠化は、何百万もの人々の健康、幸福、そして生存を非常に脅かしています。この問題は、あらゆる場所のすべての人々に関係することであるはずで、解決策は単純ではなく、長期間にわたる一致協力への努力が必要なのです。



救世軍の立場の土台となるもの

環境問題に対する救世軍の対応は、次の原則に基づいています。

- 神はすべてのものの創造者、統治者、そして保持者です。地球は、主に属するものであり、すべてのものがその中にあります（詩編 24：1、出エジプト 19：5）。人間が神のかたちに造られたように（創世 1：27）、わたしたちは、地球資源の世話を任されてきたのです（創世 2：15）。神は、被造物の世話に対する責任をわたしたちが共にし（創世 1：28～31、2：15）、この世界を癒すために協働するようわたしたちを招いておられます（ローマ 8：19～22）。
- 神と被造物の関係は、愛情深い守りと配慮の関係の一つです。人間は神のかたちに造られたので、人間が地球を管理することは、神の守りを反映するものです。被造物である世界は神を賛美し、神の栄光を明らかにするように造られました（詩編 19：2～7）。被造物に対する人間のスチュワードシップ（良い管理者としてのありかた）は、その目的を果たさせるものです。

- 地球の環境破壊の原因の一部は人間の活動の結果によるものなので（イザヤ 24：5、6）、わたしたちにはその回復のために働く責務があるのです。神が、被造物を「従わせ」、「支配せよ」と人間に求めた聖書の命令は、地球の資源の乱用を正当化するものとして理解されるべきではなく、優れた管理者であるようにとの求めとして解釈されるべきです（創世 1：28）。気候変動と環境破壊が世界の最も貧しい地域に与えている不均衡な影響は、共同体としての世界における正義の復権によって脆弱な人々を公正に扱うという、さらなる責任を生み出しています（ミカ 6：8）。



实际的な対応

救世軍は、以下のような行動を支持し、環境破壊への対応の改善を図ります。

1. 救世軍は、わたしたちの環境への配慮の欠如を認め、悔い改めを求めます。そして、環境と資源の使用に責任をもつ者となるよう、これまでの態度を変化させることを求め、より意識的に、環境と資源への責任を負うよう努めます。
2. 救世軍は、現在及び過去の慣行を振り返り、環境と資源の使用において責任をもつ者となるよう、救世軍人の環境に対する態度を変化させることを奨励します。
3. 包括的なリサイクル、環境に配慮した購買方針、環境に配慮した廃棄物管理方法、天然資源の破壊的使用を削減する革新的な方法の開発など、救世軍内における健全な環境に対する行動規範と目標を制定します。
4. 救世軍は、救世軍人の環境に対する行動改善の目標に向けて、救世軍人の訓練、教育、意識向上を通して環境破壊を鈍化させるよう努めます。
5. 救世軍は、不利なまたは有害な環境状況によって影響を受ける人々に対する、实际的配慮をおこない、彼らの代弁者となります。
6. 救世軍は、持続可能な生活様式と環境保護という共通の目標に向かって取り組んでいる人々や善意の組織、すべての政府との連携及び協力の機会を模索します。





さらに学びを深めるための参考資料

気候変動に関する政府間パネル (IPCC)

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar5/index.html>

International Development Policy – Environment; IHQ, 2014

万国社会正義委員会 (2011)

https://issuu.com/isjc/docs/caring_for_the_environment/1?e=18664572/15220279

A Call for Climate Justice Series.

Retrieved from https://issuu.com/isjc/docs/climate_justice_full.docx

国連環境計画 (UNEP)

Environment for development. Retrieved from www.unep.org.

国際連合人口基金 (2009)

State of World Population 2009, Facing a Changing World: Women, Population and Climate.

<https://www.unfpa.org/publications/state-world-population-2009>

世界人口白書 2001 年

<https://tokyo.unfpa.org/sites/default/files/pub-pdf/%E4%B8%96%E7%95%8C%E4%BA%BA%E5%8F%A32001.pdf>

世界人口白書 2020 年

<https://tokyo.unfpa.org/ja/publications/%E4%B8%96%E7%95%8C%E4%BA%BA%E5%8F%A3%E7%99%BD%E6%9B%B82020-0%23h1>

2014 年 11 月大将によって承認

この国際的な見解表明は、提示する問題に関する救世軍の公式の見解で構成されています。万国本堂の書面による明確な許可なく、いかなる方法でも修正または改訂することはできません。

